

## 妻籠宿魅力再発見事業

### 取り組みに至る背景・事業の目的

妻籠宿はかつて56軒の旅館・民宿があったが、旅行スタイルや交通事情、宿泊者のニーズの変化などの原因により、今では13軒を数えるばかりである。その一方で、宿場を訪れる外国人観光客は増加している。

他方、南木曾町内には多くの伝統芸能があり、若者に継承されてきているが、発表の機会が少ないという問題を抱えていた。

そこで、宿場の夜の風情を醸し、外国人に日本文化に接する機会を設けて宿泊客の増加を図るとともに、地元で伝統芸能の発表の場を設け、後継者を育成することを企図して、「妻籠宿伝統芸能の夕べ」を開催することとした。

### 事業内容

8月、9月の土曜日の夜に「妻籠宿伝統芸能の夕べ」と題して、「妻籠陣屋太鼓」「さいとろさし」「木曾踊り」「筑前琵琶」を、妻籠宿に宿泊する観光客等に披露し、珍しい伝統芸能を体感する機会を演出した。

また、宿場最大のイベントである「文化文政風俗絵巻之行列」などのイベントに使用する衣装の充実を図った。



【木曾踊りに参加する外国人観光客】

### 事業効果

重要伝統的建造物保存地区にふさわしい週末イベントを開催することにより、夏の週末の妻籠宿への期待感を与え、地元の伝統文化に触れてもらうことができた。特に外国人には、日本の民俗文化に触れ、体験することができる機会となった。

また、滞在型観光への試みとして、今後の可能性が広がる取組となった。

衣装については、「文化文政風俗絵巻之行列」をはじめ他のイベントにも活用できる、時代考証に耐えるものとなった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

- 土産店の店先に行燈を設置するなど、夜の宿場の風情づくりに腐心した。
- 「木曾踊り」では観客も飛び入りで参加でき、とりわけ外国人には好評を博した。
- 週末ごとに開催するイベントであるという点で、出演者の確保や、他の行事との調整が課題となった。
- 妻籠宿のイメージを損なわない範囲で、他の地区の伝統芸能（「葛の葉」「筑前琵琶」「蘭（あららぎ）さいとろさし」「大黒踊り」）も採り入れ、観光客だけでなく、地域住民にも紹介する場としていきたい。

#### 【選定のポイント】

夏の宵に宿場の雰囲気合ったイベントを演出し、観光客の宿泊を促す取り組みはユニークである。とりわけ、地元で伝わる民俗芸能を取り入れて上演したことは、伝統芸能の保存にもつながる取り組みである。

団体名	妻籠観光協会（南木曾町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	事務局 藤原 電話 0264-57-3123	事業費	1,057,360円
ホームページ	<a href="http://www.tumago.jp/">http://www.tumago.jp/</a>	支援金額	964,000円
メールアドレス	info@tumago.jp		